

## 令和2年度第2回小田原市みどりの審議会 議事録

- 1 日 時 令和2年8月24日（月） 午後2時から午後3時30分
- 2 場 所 小田原市役所 3階 301会議室
- 3 内容  
協議事項  
(1) 会長の選任について  
審議事項  
(1) 小田原市緑の基本計画改訂版素案について（審議）  
(2) その他
- 4 出席委員 椰野会長、土屋副会長、相原委員、西村委員（奥津委員欠席）
- 5 事務局 小澤建設部長、府川建設部副部長、吉野みどり公園課長、湯山管理係長  
相田計画緑政係長、石黒計画緑政係長

### 6 議事の概要

#### 協議事項

##### (1) 会長の選任について

会長について、委員から「事務局案はないか」との意見があり、事務局から椰野委員を推薦し、各委員に諮ったところ、異議なく選出された。

#### 審議事項

##### (1) 小田原市緑の基本計画改訂版素案について（審議）

事務局から資料1により説明

#### 質疑応答

委員 : グリーンインフラの説明をいただいたが、今回は考え方までで、具体的にいつまでにどの程度、小田原市として実施していくというのは組み込まないという認識でよろしいか。

事務局 : 今回グリーンインフラを掲載した目的だが、国がグリーンインフラの制度を始めたばかりであり、各市町村の単位ではまだ具体的にどういう風に実施していくかは定まっていない状況であるが、国がどういう制度として動かしていきたいかというものを、本計画の中にも表しておくべきだと考えた。本計画には、関係するいろいろな所管課が実施している事業が掲載されている。各所管課が、グリーンインフラの考え方に沿った事業をこれから作り上げていく、または考えていくための目指す方向性を示す意味も込めて記載しているため、具体的な事業にまでは至っていないが、次回の5年後の改訂へ向けての指針という考え方を示している。

- 会長 : ひとつの頭出しみたいなものである。先々、このグリーンインフラに対する考え方や具体的な事業をまとめていくにしても、今回の改訂にあたって、こういう考え方も検討していくということかと思う。
- 副会長 : グリーンインフラの関係が、今後動いていくだろうということが想定されるので、きちんと緑の基本計画に盛り込んでいくというのがまず大事である。行政計画であるので、今回の増補版の計画に残しておくということは、行政として次にグリーンインフラについて実施していくということを宣言していることになる。行政計画に位置付けることはとても大事なことである。
- 委員 : 今これだけ猛暑が続いており、新型コロナウイルス感染症の件もあり、グリーンインフラは、生活を守っていくために非常に大事なことだと思っている。今、副会長がおっしゃったとおり、行政計画に載せていくこと自体は賛成である。
- 全体的に、この計画はよくできている。私は、民間企業にいたので、企業としては、KPI や数値目標などはどうなってるのかという点については、非常に関心が高い。重点化と実績、実績が目標に至っていないのであれば、課題が何であるか、次への展開が一番のポイントになってくると思う。説明を聞いた中では、数値目標も進んでおり、そこについても問題はないかと思っている。逆に、課題の共有化などは次の計画に活かしていくことができると、なお良いのかなと思う。今、市民ホールや駅前の開発により箱物などができているので、このような状況の中で、グリーンインフラなどと組み合わせて、どう具現化していくのか、次にどう活かしていくのかということが盛り込めればと思う。
- 事務局 : 今回の改訂は5年目ということもあり、進捗管理を毎回審議会で行い、その結果を取りまとめたのが実績ということになっている。この実績を取りまとめるに際しても、各事業を実施している所管課に対し、なるべく数値化して、具体的な言葉で示すように整理してもらった。次の世代への引継ぎ、5年ごとの課題の整理が今回できたと考えている。
- 副会長 : 毎年、事業報告を第三者機関（当審議会）に報告をして、意見をもらうことを義務付け、進捗状況などの確認、課題の洗い出しができるシステムを作った。
- 会長 : 今回の資料の中の第6章で進捗状況をフォローアップしてもらっているが、この手の作業を行っている自治体は、そんなに多くはない。全国的にみて、緑の基本計画は、作りっぱなしということが多い。鎌倉市の緑の基本計画は、評価が高い理由の一つは、このようなフォローアップをしっかりとやる場所である。今回の小田原市緑の基本計画においても、フォローアップをしている点は良いことだと思う。

- 委員 : 環境変化の中で、計画に記載されている環境問題、いわゆる激甚化の問題、人口減少、高齢化などあるが、コロナウイルスの影響が大きかったので、来年度の予算を今検討中だと思うが、限られた予算の中で本計画の中に影響が出てくるのか、出てこないのかというのがよくわからない点がある。状況がどうなのかをお伺いできればお願いしたい。
- 事務局 : これまで実施してきた既存事業を整理していかないと、新しい事業が成り立たない。来年度の予算については、コロナの影響などにより税収が厳しい状況にある。その中で、何をスクラップし、何をビルドするのかというのは、重要である。一方で、人口減少の話が出たが、人口 20 万都市を目指していくことは高い目標設定であることは認識している。現在、18 万 6 千人、この 1 万人をどのようにして回復させていくのか。みんなが来たくなる街にするには、その中で社会インフラ、特に緑の部分は非常に重要なところを占めていると思っている。今後どうやって移住をしたいと思われる街づくりをしていくには、歴史や文化など小田原しか持っていない固有のものに対し、しっかりと磨きをかけていくことが大事。歴史、文化、緑などを全面に出していかないと人も増えてはいかない。
- 委員 : テレワークが多くなってきている中、都心から外れたところにスペースを確保したいと思っている方も結構いる。緑についても、もっと重点化していいと思っている。地域ごとに極端になってしまうと行政的には大変かと思うが、もっと重点化し、お金を注ぎ込むべき部分である。コロナに対する防疫感覚がものすごく強い。激甚化の対応、自然環境の対応などができていれば、もっとよくなると思う。この計画はすごくできている計画だと思っているので、各事業を実行したことをもっとアピールしていただきたいと思っている。
- 会長 : 国の方でも、with コロナ、after コロナでの街づくりということで、いろいろとヒアリングなども行い、方針などがしばらくすると出てくるのではないかと思う。その中で、緑に関しては、緑の価値とか公園の価値が再認識されたということも指摘されている。実際に行くところがなくなると近くでまとまった公園があると、そこで運動や散歩を行なうなど、公園本来の使い方をされている感じがする。改めて、公園や緑に関する意識が高まり、注目されていくと思う。今後、着実に計画を実行していき、次の改訂に向けて、今から準備をしていくことが必要である。場合によっては、先に取り組んでしまってもよいと思う。
- 副会長 : 鎌倉では、カマコンバレーといわれるようなコンピューター関連の会社が多く存在している。若い人たちが、鎌倉で仕事を始めた。コンピューター関係の仕事は非常に疲れるので、環境がよくて、海があり、山があり、緑があるという環境があると仕事の効率があがるみたいである。

- 会長 : 鎌倉もそうだが、別荘のあった場所は、元々環境がよく、潜在能力が高い。小田原はこのコロナウイルスの中で、注目される土地になるかもしれない。
- 委員 : 皆様のご意見はもっともだと感心している。
- 会長 : 商工会議所では、緑については守らなくてはいけないという考えはあるのか。
- 委員 : そういう話は出てきていない。
- 会長 : グリーンインフラの説明の中で、事例で二子玉川が緑を中心にした都市開発を行っている。緑の環境があると作業効率がよくなるという話も聞いている。緑を基軸とした都市は、そこにいろいろな産業などが入り、都市としての魅力が高まる。小田原には、歴史もある。
- 委員 : 小田原は本当に魅力的な街である。温泉や都内にも近く、海もあり、山もある。
- 会長 : グリーンインフラの観点でいうと、アメリカでは、河川の水質汚濁、下水道の負荷を軽減することが行われている。これから、検討していくことになると思うが、一つの方法としては、広がりがあるのではないか。
- 委員 : 水に関しては、下水道が結構普及している。
- 事務局 : 川や水路などに雨水が入り、直接放流されないよう処理できる環境を整えているという面もグリーンインフラと言える。いきなり川などに流される前に、山や調整区域の田んぼなどに一回雨水が入り、公園や畑などの地面に浸透し、そこから川に流れていくなど、そういう間接的な土壌の整備などがグリーンインフラに関連してくると言われている。グリーンインフラについては、今まで実施してきたことを含めて、次の計画改訂、5年後になるが、それまでにいろいろと検証していくことから始めていく。
- 会長 : アメリカのポートランド市のグリーンインフラは、公園に湿地みたいなものを作り、一回水を貯留する。そういうことを街全体で行い、川を守り、下水道に負荷をかけないということを行っているという事例であり、日本でも徐々に始まりつつある。  
緑の基本計画を変えるのかというわけではなく、この計画を実行していれば、同じ結果にはなるんだろうと思うが、思想というか、そのような視点も加えて取り組むというのが従来と違ってくることではないかと思う。
- 委員 : この計画を進めていけば、グリーンインフラに繋がるし、今までやってきたことも結構グリーンインフラだと思う。逆にグリーンインフラの最先端事例だと言って、小田原を紹介していただくと。治水もやっているし、排水もやっている。山も守っているし、川も守っていることは、グリーンインフラの目的だと思っている。ポートランドやシンガポールなど緑がきれいなところは魅力があり、住みたい地域になっている。小田原はグリーンインフラがこれだけ整っているという言い方をした方がいいのではないかと。

次の計画でもいいので、小田原はこれまでグリーンインフラをいろいろやってきたんだという先進事例についても謳っていただくのもよいかと思う。

会長 : ほかに素案につきまして意見はあるでしょうか。

(意見なし)

会長 : 今回これで、皆さんがよろしければ、骨子という形でまとめて、案が取れる形になる。今回の素案を神奈川県と協議し、パブリックコメントにかけていき、それを経て、1月に予定している第3回の審議会で改訂版の案として、お示しいただく。第3回の審議会でご意見をいただいて、最終的に改訂版として策定するというのでよろしいでしょうか。

もし、何かあれば、事務局の方へ話をさせていただき、また本日欠席している奥津委員もいらっしゃいますので、そちらの意見も含めて、まとめていただく。いろいろと変更などあった場合は、私が責任をもって確認をさせて頂くということで、すすめさせていただいてよろしいでしょうか。

(委員了承)

## (2) その他

会長 : 事務局からその他の件について何かあるか。

事務局 : その他の件で1件説明をさせていただく。

次回の審議会については、令和3年1月の中旬か下旬を予定している。本日、奥津委員が欠席されているため、事務局の方で、日程調整をさせていただき、改めて委員の皆様にはご報告させていただく。

会長 : 最後に、何かあれば。

5年を待たずにやらなくてはならない施策などについては、実施した施策の中に入れていっていただければ良い。基本的には5年後の改訂時で整理するというのでよいと思う。

事務局 : 今回の改訂作業で消化しきれないことについては、年何回か実施する審議会の中でご報告できたらと考えている。

会長 : 以上をもって、令和2年度第2回小田原市みどりの審議会を閉会する。

以上